

函館市医療・介護連携推進協議会 多職種連携研修作業部会

第7回会議 会議録（要旨）

1 日 時

平成30年2月14日（水）19：00～20：15

2 場 所

函館市医師会病院5階講堂

3 出席状況

メンバー：中村副部長，川口メンバー，船山メンバー，齋藤久剛メンバー，益井メンバー，寺田メンバー，齋藤禎史メンバー

部会運営担当：函館市医療・介護連携支援センター）佐藤，川村，柳谷

事務局：市介護保険課）小棚木課長，京野主査

4 議 事

○報告事項

- (1) 平成29年度中小規模研修会（介護関係者向け，医療関係者向け）について
- (2) 第3回函館市医療・介護連携多職種研修会報告について

○協議事項

- (1) 平成30年度 多職種連携研修計画について
- (2) 研修情報の一元化と提供について

5 会議の内容

小棚木医療・介護連携担当課長

定刻過ぎまして，船山さんが，まだ見えられていないんですけれども皆さんお忙しい中お集まりでもありますので開始させていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。はい。それではただ今から，函館市医療・介護連携推進協議会の多職種連携研修部会の第7回会議を開催させていただきます。前回の会議でも確認いたしておりますが，この会議は原則公開により行いますので，ご了承願います。次に，第6回の会議録についてでございますが，事前に各メンバーの皆様にご確認をさせていただいております。事務局の方には，特に修正のご意見がございませんでしたので，原案どおりで第6回会議録を確定させていただき，市のホームページ上で公開させていただきたいと思っております。本日，岩井メンバー，水越メンバー，中村メンバー，高畑メンバー，あと京谷メンバーが所用により欠席となっております。本日の資料を確認させていただきます。事前に会議次第を1枚，資料1から5まで全部で裏表の印刷含め合計8枚をお送りさせていただいておりますが，本日お持ちでいらっしゃる方はいらっしゃるでしょうか。よろしいですか。また，あらかじめ，机上に座席表と出席

者名簿を机上に配布させていただいております。本日、会議の議事の進行につきましては皆様の特段のご配慮とご協力をお願いいたします。それでは、本日部会長の酒本部会長が急遽所用によりお見えになる事が出来なかったとのことで、急遽中村副部会長様のほうに進行をお願いしたところでございます。中村副部会長、よろしくお願い致します。

中村副部会長

それでは、皆さんご指名頂きました中村でございます。不束者ですがよろしくお願い致します。それでは早速、次第に従いまして議事を進めてまいります。まず報告事項（１）「平成２９年度中小規模研修会（介護関係者向け、医療関係者向け）について」、佐藤幹事から説明願います。

佐藤幹事

はい、皆様こんばんは。幹事の佐藤でございます。次第の２ですね、報告事項の（１）「平成２９年度中小規模研修会（介護関係者向け、医療関係者向け）について」につきましてご報告いたします。今年度２回目の中小規模研修会となりますが、当初の予定通り２月１３日、２６日にそれぞれ開催となりますので改めてご説明いたします。報告事項のアでございますが、介護関係者向け研修会についてです。１０月同様、テーマを「医療機関の病床機能の理解、この先の医療政策の展開について」とし国立病院の医療ソーシャルワーカーの廣瀬量平様に講師をお願いしております。会場は医師会病院５階講堂で２月２６日月曜日に実施致します。１回目同様に、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問看護事業所の計１３４件に案内を発送しております。１回目の研修会の反響が大きく、１回目に参加された事業所内で別の方が参加されているケースも多く、定員８０名のところ現在まで５６人の申し込みが来ております。

続きまして、イの医療関係者向け研修会についてです。こちらについてもテーマは「介護保険の概要～退院を見据えた展開」と致しまして、講師は地域包括支援センターゆのかわ、保健係長の京谷佳子様をお願いしました。昨日、２月１３日に国立病院さんを会場にすでに終了しております、会場となった国立病院の職員さんはじめ、協議会に参加しておられる医療系の団体様から２８人の参加がありました。こちらの研修会につきましても、終了後のアンケートでは有意義であったとの回答が多くみられておりました。

尚、１０月に行った１回目の研修につきましては、医療向け・介護向け研修、どちらもその様子をセンターホームページ上に公開しております。以上でございます。

中村副部会長

それではただいま、幹事の方よりご説明頂きました報告事項（１）ア・イに関して、皆様からご発言を頂きたいと思っております。ご質問、ご意見等はございませんか。よろしいですか。それでは、続きまして報告事項（２）「第３回函館市医療・介護連携多職種研修会報告について」に関して、佐藤幹事から説明願います。

佐藤幹事

報告事項の（２）「第３回函館市医療・介護連携多職種研修会報告について」につつまし

て、ご報告いたします。報告事項のアの参加人数と参加状況でございます。平成29年11月25日に花びしホテルにて開催いたしまして、参加人数は233名、うちグループワーク参加者が192名、懇親会参加者が97名でした。

報告事項のイのアンケート結果につきましては、資料3をご覧ください。165件のご回答で集計結果と分析が記載のとおりとなっております。こちらの研修につきましても、すでに、センターホームページ上で活動報告として公開しております。グループワークのまとめに関しては、現在公開に向けて整理中です。シンポジストをお願いいたしましたメンバーの皆様にはグループワーク②の他職種への質問のご回答にご協力いただきましてありがとうございました。センターの方で、体裁を整え次第公開となりますので、追ってご報告いたします。

また、センターからのご提案でございますが、この研修会の中で、15職のシンポジストの方々に職種紹介をしていただきましたが、その内容がとても分かりやすく、ためになったとのご意見が多かったこともあり、せっかくですので、広く関係者へ周知したいと考え、できましたら研修報告とは別に、センターホームページ上で職種紹介の閲覧が簡単に出来るよう別の枠を作って掲載したいと考えております。シンポジストとして、研修部会のメンバーの皆さんにもご協力いただきましたので、研修会の際に使用したメモ等で構いませんので、センターまで原稿を頂ければ順に掲載していきたいと思っております。11月の研修会で、こんな形で職種紹介をしていただきましたというような掲載の仕方を考えております。1職種ずつ順番に載せていければと思っております。

報告事項の中でのご提案という形になりますが、この件につきましても合わせてご意見をいただければと思います。よろしくお願い致します。

中村副部長

はい。ありがとうございました。ということで、まず第3回多職種研修会ということで、私も事例を提供いたしまして、歯科医の先生方から（なぜ）もっと早く（歯科医を）使わなかったのかといろいろご意見頂きまして非常に勉強になったところでしたが、そのあたりでもアンケートも資料（3）に記載されておりますが、どなたかご意見ございませんでしょうか。よろしいですか。それともう一つ、提案出されましたがシンポジストによる職種紹介をホームページ上に掲載していきたいというご意向でございましたが、このあたりでもいかがでしょうか。どうでしょうか、イメージ的につきますか？

佐藤幹事

当初、コラムのようなもので考えていたんですが、コラムという形が適しているかこれからまた検討なんですけど、各職種の皆さんからお話いただいた内容の原稿をまずいただいて、それをそっくりそのままとはならないかもしれませんが、例えば訪問リハビリテーションではこんなことができますよ、こんな形で地域で活躍してますよ、というようなことをまとめさせていただいて訪問リハビリのお仕事というような形で載せれば良いなと。医療介護関係者の方も参考になると思うんですが、一般市民の方もこんなお仕事あるんだなとこういう時に助けてもらえるんだなという風に知ってもらえる機会になればなというイメージで考えております。いっぺんに各職種ホームページ上に掲載するのはなかなか難しいと考えてお

りますので、順を追いながらひと月ごとになるのか、2か月ごとになるのか、載せる頻度はセンターの方で考えながら進めていきたいと思っております。

益井メンバー

現時点のイメージ的に、どのくらいの文章量を用意したらいいでしょうか。

佐藤幹事

そうですね、このくらいの文字数でこのくらいの行数になるねと話はしていたんですが、いかようにもなるねって言うていたんです。逆に、ここまでで制限というよりも、少なくともこれ以上の文字数は書いていただければ助かりますっていうような感じでご提案しようかと考えております。あとは、字を小さくしたり大きくしたりというような形で考えております。たしかに、原稿用紙何枚となると・・・

益井メンバー

これ一般的に職種を簡潔に紹介できる適度な文章でという事ですね。

佐藤幹事

そうですね、実際お願いするということになりましたら、システムの業者さんと相談しながらどういう見せ方が良いのか、どのくらいの文字数にすると見やすいのかとか、目に入りやすいのかとか、プロの意見も聞きながら検討していきたいと思えます。

益井メンバー

わかりました。ありがとうございます。

中村副部長

先日、コアメンバーの話し合いでもこの話出たんですけども、はっきりいって支援センターさんの取組みで、僕ら了承したとしても、支援センターの大変なご苦労になる事だろうから、無理せずやっていたらいいのではないのかという話にしたんですが、シンポジストのコメントを載せることに関しては、ご了承ということで皆さんよろしいですか。

川口メンバー

全く同じじゃなくていいんですか。

中村副部長

前回の研修の原稿ってことではないんですね。

佐藤幹事

そうですね。そのままではなくてもいいです。

寺田メンバー

一方的に枠の中に自分たちが何ができるかという文章を打つよりも今のイメージとしては、北海道新聞の子供新聞とかが入ってくると思うんですけど、静さんみたいなマスコットが「訪問リハビリってどんなことするんだ」って「こうだよ」「それって誰でも受けられるの?」「いや、介護保険が無いとダメなんだよ」みたいな方が一般の人がわかるかなと。

中村副部長

その辺りの掲載方法に関してはセンターさんの方でもんでもらって、そういう事を載せるってことについては了承ということでもよろしいでしょうか。

はい。それでは、了承していただいたということで進めさせていただきます。

他に(2)に関していかがでしょうか。よろしいでしょうか。報告事項に関しては(1)(2)とも終わったんですが、よろしいですか。それでは、続きまして協議事項に入ります。(1)

「平成30年度 多職種連携研修計画について」アの「多職種連携研修に関する基本方針(案)について」に関して、幹事から説明願います。

佐藤幹事

協議事項(1)「平成30年度 多職種連携研修計画について」のアの「多職種連携研修に関する基本方針(案)について」です。資料4をご覧ください。

今回、センターで平成30年度の多職種研修計画(案)を策定するにあたって、改めて函館市医療・介護連携推進協議会多職種連携研修作業部会での協議の経過や今後多職種連携を推進していくための研修会の企画・運営の方向性を共有できるようなものが必要だと感じ

「多職種連携研修に関する基本方針」を作成いたしました。前段は、多職種連携研修の必要性の基本認識が記載されています。そのあとに「研修の目的(テーマ)と内容」として大きく4項目に分け記載しております。

(1)は相互理解の促進です。顔の見える関係性の深化とお互いの専門性や役割の理解と副題がかかれておりますが、まさに今年度のテーマとして掲げられていた内容になっております。具体的には今年度、中小規模研修会として企画した医療関係者、介護関係者向けの研修会や時には双方向での研修会、また、医療と介護、病院と在宅等が互いのケアを振り返り、情報を共有したり、さらには地域の資源を知る機会を作る等々を目的に開催する医療と介護が連携した症例のオープンカンファレンスとなります。このオープンカンファレンスについては、デスカンファレンスとして昨年より稜北病院の川口先生が各病院を会場に取り組みまれており、これまで五稜郭病院・中央病院・国立病院・市立函館病院・医師会病院で6回開催されております。病院医療と在宅医療・介護の経過の中で多職種が関わった症例について当事者となった医療・介護関係者が振り返りを行います。カンファレンスは川口先生のファシリテーションのもと進められ、オープン形式として医療・介護関係者が傍聴・参加できるスタイルになっております。センターとしても何度かこのカンファレンスに参加させていただいた上で、川口先生ともお話ししこの取り組みが函館市の医療・介護連携の推進につながる事、またはあらたな課題発掘の場になるのではないかと考え、センターの事業として位置づけることといたしました。これまでは、川口先生と開催病院の相談室や連携室の方が中心となって症例の選定から関係者への連絡、研修会の準備等を行っていたとのことでしたので、出来るだけその形を崩すことのないよう、協働しながら運営していく予定でおります。

また、来年度以降になりますが、異職種間の意見交換会等も考えております。

(2)は連携強化です。関係者間の共通の仕組みやルールへの理解の促進と実践の強化として、「看取り」「入退院支援」「急変時対応」を小項目に掲げました。すでに情報共有ツール作業部会や退院支援分科会等にて関係者間の仕組みやルールが確定しておりますので、各部会・分科会との協働により理解促進と実践強化のための学習会や事例報告会等を検討しております。また、各専門職の団体からの要請があれば、共催して開催するなど柔軟な対応で実施していければと思っております。

(3)は専門性の向上の取り組みへの支援と関わりです。各種団体や各機関・事業所、個人で実施している研修への支援と関わりとして、研修会の広報の支援(研修情報の一元化)や先進的な研修を行っている各種団体等の情報収集と研修の共催等の協力の検討、また要請があればセンター職員や専門職による在宅医療・在宅介護への理解促進のための出前講座の実施等を考えております。

(4)は人材育成です。多職種連携を担う人材の育成として看護学生や介護福祉士などの学生を対象にセンターで行っている研修会や勉強会への見学等の案内をしたり、今後必要性に応じて医師会と協働して専門職による在宅医療チームの編成等も検討していきたいと考えております。

次に研修の形式を記載しております。イメージを共有しやすいように規模・形態・対象者、それぞれを組み合わせる研修会を企画していく予定です。規模は毎年開催している大規模研修のような200名超えの大規模と、今年度、中小規模研修として開催した100名程度の研修会を中規模、もっと小規模で密に30名程度で行うものを小規模研修として位置づけました。

形態に関しても、研修部会の皆様からも色々な研修会の提案頂きまして、整理すると座学講義型、シンポジウム・事例検討・グループワーク等の対話体験型、また、各団体、各機関・事業所、各個人で対応となると思っておりますが、OJT、自己啓発、そしてこれらの混合型と分けました。

対象者としては、職種・職域の他、キャリアレベル別として、経験や能力に合わせた研修会の開催を目指したいと考えました。具体的な到達目標・指標としてキャリアレベル別に示したものが次になります。キャリアレベルの目安ですが、上級・中級・初級と3段階に分けました。経験年数は多職種連携に関わっている概ねの年数とし各個人・機関の判断としてもらいたいと思っております。また、横軸に4段階で到達目標が掲げられておりますが、それぞれのレベルに合わせて、◎○△と習得すべき事項の重要度を示しております。また、到達目標を達成するための研修の場については、センターが実施する研修会等だけではなく、各種団体や各機関・事業所ごとの研修会等と協働し目標達成を目指すことを考えております。また、修了証の授与なども現在のところは考えておりません。センター単独ではなくあくまでも各団体や機関でもこの到達目標を意識した研修会等を企画して頂けるような働きかけを考えております。これらを踏まえて、各キャリアレベルに合わせた研修内容を継続的に実施できるよう年度計画を策定していければと考えております。

研修計画の策定と運営、研修計画策定の基礎とする事柄については、記載のとおりです。

最後に、研修会等の参加状況の把握と参加率の向上についてですが、地域全体としての専門職の質の向上を目指すために、センター主催で実施する研修会等の参加状況を把握し、比

較的参加率が低い医療機関や介護事業所に対しては、個別に訪問等を実施するなど、参加の障害となっている理由の把握に努めるとともに、研修会等の趣旨説明を併せて行うなどできるだけ理解を得られるよう努め、参加勧奨を行います。また、研修会等終了後のアンケート調査の実施とその活用についても記載しております。

協議事項（１）ア「多職種連携研修に関する基本方針（案）について」の説明は以上になります。この件につきまして皆さまにご協議を頂ければと存じます。

中村副部長

佐藤幹事、ありがとうございました。それでは、資料の４になりますが、「多職種連携研修に関する基本方針（案）」になりますが、これ今日了承いただければ（案）が外れるということでしょうか。はい。佐藤幹事からこれらについてご説明頂きましたが、これについて皆さんのご意見を賜りたいと思います。

まあ、今まではこれがなかったという事で、必要だという事ですね。基本方針を定めていきたいということで平成３０年度より開始していきたいという事ですね。

齋藤メンバー

道南老協の齋藤です。一つ質問なんですけれども、資料（４）の２ページ目の上の研修の形式の中で、小規模研修っていうのが新たに出てきていますが、具体的にどんなイメージの研修でしょうか。３０名っていうのがかなり定員が少なくて早めに応募しないと漏れてしまう気もするんですが、具体的にどういう感じの研修会を考えていますか。

佐藤幹事

ご質問ありがとうございます。小規模研修は３０名程度となっております。イメージをしているのは出前講座的なものがメインになるかなと考えておまして、各団体様からのご要望に応じて出前講座をさせていただく事が多くなるのではないかとイメージしておりました。ただ、団体様の規模によっては、小規模という形の表現は適さない場合もあるかもしれませんが、イメージとしてはそういう形で広く皆さんの参加を募集するのではなく、各事業所さんだったり施設さんだったりというイメージです。

齋藤メンバー

わかりました。ありがとうございます。

中村副部長

よろしいでしょうか。他にどなたかございませんでしょうか。いろいろ、対象と方法と記載がされておりますが、どこにどれがぶつかるんだってことになるかと３０年度の話になると思うんですが、こういう形で行ってきたいということでよろしいでしょうか。

川口メンバー

１０月の大規模研修についてですが、１０月予定となっておりますが、日程とかが候補ってありますか。

佐藤幹事

30年度の10月の研修日ですね。まだ確定はしていませんが、今のところ可能性が高いのは10月の6日の土曜日と20日の土曜日です。もしくは9月の29日と候補日が上がっておりますがどちらかというと先程の6日か20日が可能性としては高いです。会場の兼ね合いでまだ決めかねているというところです。確定しましたら、出来るだけ早くお知らせいたします。

中村副部長

先生のご予定もあって早目に知りたいという事ですね。配慮お願いいたします。あと、オープンカンファレンスの話もありましたが、そのあたりもよろしいでしょうか。

川口メンバー

オープンカンファレンスですね、2年前ですね、2016年の12月から五稜郭病院から始まって、毎回その病院の人5、60名プラス外部から40名くらいで病院から在宅に帰って亡くなった人のケースカンファレンスをしております。症例に関わった人だけではなくて関わっていないけれども興味がある人というのも来ていただいて、それを振り返る中で、急性期側は在宅でこういう事が出来るんだとか、新規介入だとか、急性期でしか話していない事とか、そういう事を在宅側が知れたりとか、そういう機会になっていて実際の事例を振り返るので、研修会で架空の事例をやるのも一つの手ではあるんですが、このカンファレンスは実際の事例なので本当に実際に関わった人たちの生の思いだとか、想像がしやすいので、まさに多職種の連携にはすごい向いているのかなと思って始めて、今6回まで来たんですが、来年度からはこちらでバックアップしていただけるということで、また色々な形で進めていけるのかなと思います。オープンにするので、個人情報保護法だとか、いろいろ気になる方もいらっしゃると思うんですが、亡くなった方は基本的に個人情報保護法は適用されないんです。ただ、もちろんご家族の方とかの情報もありますんで、毎回資料は外に持ち出さないようお願いしているとか、個人がわからないようにうまくデフォルメしてやるという事に気をつけています。

中村副部長

はい、ありがとうございました。補足ってわけじゃないんですが、2ページ目の到達目標っていう表ですが、コアメンバーで船山さんの方から提案していただいたものなんですが、これ△を外していただければわかりやすいと思うんですが、要するに大規模、中規模、小規模ってあたりも結局、②あたりの多職種間のコミュニケーションの必要性が理解でき、ネットワーク等を形成できるってところの部分が上級から初級まで幅広い参加っていう。これがいわゆる大規模研修に値するべき内容なのではないかと。逆に①とか③は中規模で、④とかになると小規模的な。そういうイメージだとイメージつきやすいかなと。そういうイメージでしたよね、船山さん。補足お願いします。

船山メンバー

はい、その通りです。○の数を数えていただくとたぶん②が全部で二重丸も含めて全部で4つなんです。ここが参加者が一番出る、初級の人の中級の人の上級の人が出れば200人超えるだろうということで、中村さん言ったように①番とか④番なんかはある意味、例えば初級の人なんかは結構人数いるかもしれませんが、上級の人であればそんなに人数いないので、もしかしたら初級でやるような研修になるんじゃないかなと、そういうイメージでこれを作りました。

中村副部長

どうでしょうか、齋藤さん。そのあたりでイメージつきましたか。小規模あたりで少ないんじゃないかのご意見頂きましたけれども。

齋藤メンバー

大丈夫です。

中村副部長

それでは、こちらの方、よろしいでしょうか。はい、益井さんお願いします。

益井メンバー

はい、すみません。今のところ、到達目標の部分での質問なんですけれどもキャリアレベルでの目安ということで、経験年数は多職種連携に関わっている概ねの年数とし、各個人・機関の判断とするというところで、このレベルが変わっていくと。だとすると、その会ごとで勝手にと言ったら言葉悪いかもかもしれませんが、参加する人間に「あなたはこのぐらい出ているから中級ね」「あなたはあまり出ているから初級ね」とそれぞれの会が決めるというイメージでよろしいでしょうか。

佐藤幹事

会というよりは団体というよりは、各所属機関といたしますか、例えば益井東洋治療院さんだとか、所属している職場長さんとのやり取りの中で考えていただくというイメージでおりました。団体で振り分けるといのはなかなか難しいと思いますので、各所属されている事業所さんの中で「あなたは初級で参加しておいで」とか「あなたは中級でいっておいで」とかいうイメージで。ただ、私たちも明確に区分けできる状況ではないので、本当に大まかなイメージでしかお伝えするしか出来ないものですから、そこで職場長さんの判断で対応していただければと思います。

益井メンバー

そうしますと、私たちの業種の鍼灸マッサージというのはほとんどがひとり親方というか、いわゆる機関というほどのものではなくて、一人で開業している。まあ、勤務している人もいますけれども、多くはひとり親方なんですね。という事は、「私は中級レベルだ」という判断でいくという感じでしょうか。

佐藤幹事

そうですね。そういう判断でも構わないと思います。あとは、①の研修に去年参加したので、今年は②に出ようかなとか。そういうイメージで構わないと思います。ただ、①に1回出たので、もう2度と出ちゃいけないという事ではなく、何度出て頂いても構わないです。興味とご自身の状況がどこに置かれているのかを勘案しながら参加して頂ければと思います。

益井メンバー

なるほど。じゃ、上級・中級・初級の線を引くという事ではなくて、ですね。

佐藤幹事

これには出てはいけませんとか、中には確かに④になると管理者の方限定でという会も中にはあるかもしれないです。ですが、そのほかのところ、絶対これは出ちゃいけませんとか、あなたはこれに出てくださいとか、絶対だめですよとか線を引くものではない。イメージとして、皆さんはこのレベルに参加して頂ければなというのがわかりやすくなるようにと思ひまして、こういう形を取らせていただきました。

益井メンバー

わかりました。それであればよくわかりました。もう一つなんですけど、◎と○と△のイメージがつかめないんですが。

船山メンバー

◎は「特に」です。例えば①番の到達目標の初級レベルのものであれば、経験年数3年未満の方が特に出てほしいという意味ですね。だから、上級レベルの人はここら辺の部分がかかっていて上級になっているはずなんで、まあ管理職・リーダークラスになっているはずなんで、特に出る必要はないだろうと。そういう意味なんですね。だから、上にレベルがどんどん上がるにしたがって上級レベルの人が出る◎になっているのと、逆に初級レベルの方は④の研修に出てもたぶん3年未満の知識だけであればなかなか③とか④の研修に出てもそれなりのものは得られないだろうと。ある意味、今回キャリアレベルを設けることで、研修もそれに合わせたレベルのものを用意すれば各団体で当然、いわゆるキャリアラダーみたいなものがあって、各団体ではそういう風に育てているはずなんだけど、この研修部会の方ではそういうラダーが無いままに1年に1回大きなやつをやるんだけど、だれを対象にしてやるのかっていうのが見えなかったんで、そういうところもしつかりとラダーを作ってキャリア別にやりましようっていうのが今回の話だったんです。

益井メンバー

すっきりわかりました。研修を提供する側から、この研修は上級者レベルは○で初級者レベルは△ですのでの感じですね。良くわかりました。ありがとうございます。

中村副部会長

ということで、△いらんじゃありませんか。△つけるからわからなくなるんじゃないですかね。

船山メンバー

たしかに。

益井メンバー

でも三段階ぐらいがちょうどいいんじゃないんですかね。

中村副部長

あと、初級・中級・上級の言い回し方。最初、管理者・中堅・新人とかのニュアンスでしたね。これなんかこう、上中下じゃないけれども誤解を招く取られ方をしてしまうかもしれないので、その辺はどういう表現が良いのか考えた方がいいかもしれないですね。

佐藤幹事

この多職種研修部会の中で計画を策定していく、もしくはイメージしていくうえでのこの基本方針となりますので、これを皆さんに公開してこれをもとにしてくださいというものではないです。研修を練っていくうえで、この基本方針というものが今まで皆さん頭の中で整理されていたと思うんですが、明文化させていただいたという捉えで考えていただければと思います。

中村副部長

よろしいでしょうか。それでは、この基本方針の方、皆さんの承認を頂けるということでよろしいでしょうか。はい、基本方針は承認されました。

それでは、続きまして協議事項（１）のイ「平成３０年度 多職種連携研修計画（案）について」に関して、幹事から説明願います。

佐藤幹事

協議事項（１）のイ「平成３０年度 多職種連携研修計画（案）について」です。資料５をご覧ください。先ほどの多職種連携研修に関する基本方針をもとに平成３０年度の多職種連携研修計画を策定しました。縦軸に基本方針の中にあります目的（テーマ）が４項目あります。そこから横に、内容、形式、定員、時期と記載されています。

３０年度は、（１）相互理解として、今年度の中小規模研修会を、対象者を変えて、講師の方、内容はそのままに継続することとしております。①の医療関係者向け研修につきましては会場を中央病院、市立函館病院、医師会病院としそれぞれ５月、８月、２月と３回の実施を予定しております。また、②介護関係者向け研修は、対象者を訪問・通所系、入所系、サ高住・有料とに分け、これも５月、８月、２月の３回で実施を予定しております。人数の関係もあり、介護関係者向け研修会については、テレシアターを予定しております。

—この相互理解に関しては、キャリアレベル初級から中級の方を対象にと思っております。③のオープンカンファレンスですが、多職種による症例の振り返りと共有を内容にして急性

期病院を会場に随時開催いたします。

次に(2)連携強化ですが、30年度は看取りを題材に大規模研修会の開催を考えました。今年度は、団体制限や人数制限をせずに広く参加を募りシンポジウムを行い、その後希望者のみでグループワークを行いたいと考えております。「看取り」に関しては、センターの事業のひとつとして平成29年度より施設看取りの実態把握から着手しておりますが、今後施設看取りの支援に続き、在宅看取りの実態把握と支援を予定したいと思っております。

平成30年度は、病院看取り・施設看取り・在宅看取りにおける勤務医・施設医・在宅医に、それぞれの立場での役割や看取りの場面における現状について発信していただき、多職種が地域の課題と今後目指すべき在り方を共有できるような研修会としたいと思っております。

これらを踏まえて平成31年度以降の大規模研修会は、「看取り」を題材に具体的な連携の研修会としていければと考えております。研修日程としては、30年度は9月・10月頃を予定しております。連携強化の⑥⑦については、入退院支援として「はこだて入退院支援連携ガイド」と「はこだて医療・介護連携サマリー」の活用促進のため、退院支援分科会や情報共有ツール作業部会と協働して、事例検討やグループワークを計画しました。これに関しては、実務についておられるような団体と共催して実施していくイメージで考えておまして、各団体からの要請で随時実施していければと思っております。

また、急変時対応についても、急変時対応分科会との協働で、平成31年度以降に事例検討など実施していければということで、今年度の予定には入れておりませんが、昨年実施した急変時対応の好取組事例報告というような形での研修会を開催できればと考えています。その先駆けとして30年度はセンターによる介護施設訪問を継続していくこととなっております。

(3)専門性の向上についてですが、「在宅医療と在宅介護への理解の促進」ということで、各団体からの要請でセンター職員による座学講座を考えております。

(4)人材育成に関しては、各方面との調整も必要であるため、平成31年度以降の予定としております。

協議事項(1)イ「平成30年度 多職種連携研修計画(案)について」の説明は以上になります。この件につきまして皆さまにご協議を頂ければと存じます。

中村副部長

佐藤幹事、説明をありがとうございます。それでは、協議事項(1)イ「平成30年度 多職種連携研修計画(案)について」に関して、皆様からご発言を頂きたいと思っております。ご質問、ご意見はございませんか。まだ、未定の部分もあるようですが、いかがですか？今回は看取りをテーマに大規模はいくということで、人数も定めないという強気の発言がございましたが。

佐藤幹事

説明が足りなかったかもしれませんが、どうしても会場の都合上、グループワークの参加人数の方は制限がございます。シンポジウムの方はより多くの方に参加していただけるようにグループワークに参加される方以外の方もいけるような形で開催できればなどと考えておりました。それもあって大きな会場が必要な為、会場探しに手間取っているというような状

況でございます。

益井メンバー

アリーナとかどうなんですかね。

中村副部長

それもありますね，サンリフレの体育館とかね。

佐藤幹事

サンリフレの体育館も，アリーナも考えたんですが，全て会場設営を自分たちでしなければならぬという状況がありまして，300名400名となるかわかりませんがその方々の席を用意すると，そして後片付けするとちょっとこの人数だとなかなか大変かなと思いついて，今年度はホテルをなんとかおさえられるように動いております。

中村副部長

ありがとうございます。はい，益井委員どうぞ。

益井メンバー

あの，函鉦連の益井です。質問でもなんでもなくて，個人的な希望なんですけど，川口先生のオープンカンファなんですけれど，他の研修会はだいたい遅い時間から始まるんですが，その辺，先生，今までオープンカンファ，デスクカンファ，出たかったんですが若干時間的に早いので，その辺何とか時間的なものを考えて頂きたいなど。

中村副部長

ちなみに何時からが？

益井メンバー

30分違うだけでもずいぶん違うんですね。

中村副部長

30分遅く開始してほしいと？

益井メンバー

できれば，そうなるとう嬉しいなと思っております。

中村副部長

先生，そういう意見も出ましたのでお願いします。

川口メンバー

今まで，6時から開始していたんですが，だいたいその病院の看護師さんたちがナース服

のまま来るのがだいたい6時がいいとこなんです。それ以上遅くなると結構帰っちゃうんじゃないかというんで、ターゲットが一番その病棟の看護師さんが是非出てほしいんで、と考えていたんで、別に6時からが絶対と決まっている訳ではないんで、今後検討したいと思います。

益井メンバー

はい、ありがとうございます。

中村副部長

はい、寺田さんどうぞ。

寺田メンバー

今回、これが承認されたら(案)が消えて、ホームページにこれをアップしますか？

佐藤幹事

この研修計画という形でこんな研修計画になりましたという形でのアップではなく、この部会資料としての掲載はあります。これが決定しましたという報告の形での公開は今のところ考えておりません。部会資料としての掲載です。

寺田メンバー

自分もなんですけれど、まず対象者のところが不明確で、もしこれがポンと出たときに、すごい、自分も全部興味があるし出れる分だけ出たいと思うんですが、自分はどの研修に出れるのか、あとは自分は黙っていてもどの研修の案内が来るのかなという部分がぼんやりしているかなと。そこが個人的にすっきりしないところです。

佐藤幹事

キャリアレベル？対象者？医療関係者になるのか、介護関係者になるのかというところ？

寺田メンバー

リハビリ関係は、訪問のリハしか入っていない事もあって、もっと参加したいという人がたくさんいる訳で。

佐藤幹事

なるほど。今までは、この医療・介護連携推進協議会に関係して下さっている団体さんへの周知という形で、限定って言うていいのかわ、関わって下さっている団体さんからの発信という形で研修会の開催をしていたんですけれども、確かに今回の大規模研修会に関しては制限をかけない予定でおりますので、もしかしてグループワークの方は今迄通りこの協議会に携わっている団体さんに限らせていただくかもしれませんが、シンポジウムの参加に関しては、もっといろんな団体、多職種連携に参加されていない団体さんにもお声かけできればなと考えております。その他の、例えば中小規模研修会、今年度もやっております、中小規模

研修会に関しましては、例えば、団体さん制限だけではなくて個別のファックス送信などもしておりますので、結構広く案内はさせていただきました。

寺田メンバー

医療と介護なのか、その所属の団体なのか、職種なのか、事業所レベルなのか、いろんな線引きが絡まっているので、自分の中でも解消できるように考えてみます。

佐藤幹事

すいません。

中村副部長

どうしても、大規模もそうですけれども、協議会からの呼びかけという形になっていますもんね。支援センターからどんと全事業所についていうものじゃないんで、何かその辺の、あ〜どうなんだろうかなっていうのは私もわかるような気がするんですが。この辺、協議会にこだわるのもどうなんだろうかなと思いますけれども広げすぎると広げすぎたで收拾つかなくなるのも確かなのかなと思いますので、なんとも言えないのかなと。

―難しいですね。大規模といっても、団体さん毎に30名までですとか10名までですとか縛りをかけてやっている現状もあるので、そこを開放して一気にどんと全事業所についてなるとこれまたすごい事になるのかなと思いますし。そうなんですかね、その辺。前から指摘はしていたんですが、訪問介護がないじゃないですか、今。ヘルパーも居ないのでそういう意味でも今後どのような関わりでいくのかっていう事は支援センターさんでもんでいただくしかないなと思います。きっとどれにも出れるんだと思います。寺田さん。それでは計画案についてよろしいでしょうか、ちょっと不透明な部分もありますが承認して頂いたということで。

それでは、続きまして協議事項（2）の「研修情報の一元化と提供について」に関して、幹事から説明願います。

佐藤幹事

協議事項（2）「研修情報の一元化と提供について」です。

昨年4月から今年2月までの掲載件数ですが、合計23件でした。うち、センター主催のものが6件、他の団体様主催で掲載の依頼があったものが17件でした。前回の部会でもご報告いたしましたが、情報の一元化というのにはまだまだ情報が少ないと感じており、各団体様への提供依頼を1年間に延ばし継続している所でもございます。

現状といたしましては、協議会に参加している団体が主催して、かつ多職種が参加できる研修情報を掲載しております。その他、センター及び函館市の判断として、①主催なしの共催団体として協議会の団体が加盟している研修情報、②センター事業内容に関する研修情報（企業及び特定の商品等の営利目的ではないもの）という風に整理しておりますが、今後、参集团体の拡大や情報の収集方法の見直しが必要だと考えます。センターとしましては、参集团体の拡大はせずに、現在、センター及び函館市の判断として実施している主催、共催の掲載条件について、改めて正式ルールとして、現状主催のみとしている所を主催なしの共催

も提供していただく事としたいと思います。ただし、後援のみとしている研修会に関しては相当な数が予測され、現状では掲載不可ということでお願いしたいです。

また、情報の収集方法に関しても現状使用して頂いておりました申し込み用紙の記入を省き、各団体様で作成している研修案内のチラシ等をそのままセンターに送っていただくこととしたいと思います。また、毎月の各団体長様宛の提供依頼のメールも継続していきたいと思っておりますので、引き続きご協力いただければと思います。

協議事項（２）「研修情報の一元化と提供について」の説明は以上になります。この件につきまして皆さまにご協議を頂ければと存じます。

中村副部長

はい、ありがとうございます。支援センターとしては思ったより伸びなかったという印象ということでよろしいでしょうか。ということで、30年度からは幅広く、現状のままでもうちょっと広げるということで、例えば申し込み用紙を簡素化するですか、我々はチラシをそのままファックスすればいいということですよ。だったりとか、そのあたりで多少、情報を提供していきたいということですが。センターで行う研修もかなり30年度はありますよね。これだけ。この辺で皆さんの方から何か情報の一元化でもうちょっとこう、情報をまとめやすい方法とか考えつく方いらっしゃいますか？はい、先生お願いします。

川口メンバー

今、その支援センターのホームページにどのくらいの情報のアクセスがあって、どのくらい見ているのか。きっと内部の人だともしかしたらこのページクリックしたらとかわかるんですけど、実際、それでその掲載したものをどのくらい見ているのかと。今ちょっと見てみたんですが、例えば自分がもし見ようとするのであればものすごいなんでも載っているのか、面白い、ここのサイトを見るとすごくいい情報が載っていると、逆に今、少ないので、なんか何もなくてそこを見に行ったら何とか情報を得る人がどのくらいいるのかなって言うのが、微妙なのかなって気がするんですよ。ただ、じゃあいっぱい載せればいいのかっていうのも問題なんです。戦略的に何をしたら、ただ載せてますっていうのにするのか、そこを活用してほしいのか、その辺戦略たてたらいいのかなって思ったんですが。ちょっといい案は浮かばないんですが。

中村副部長

実際、閲覧数とかのチェックはされているんですか？

佐藤幹事

そうですね。ホームページを何名の方が見ている、実際の実人数と開いたページ数と延べ人数は見えるようになっています。この研修情報を開いた方がどの位いるのかは把握できなかったはず。すみません、今数字がポンとお答えできればいいんですが、頭に入ってないので、お答えできないんですが、確かに川口先生からもお話ありましたように、何かしらの対策は考えていきたいなっていうのが今回ご提案させていただいたもの、今まで皆さんにお手間をおかけしていたんじゃないかと。申し込み用紙を書くというのがなかなか面倒とい

うところもあって依頼が来なかったということもあるのかって考えてですね、こちらをまず省きましょうと。それから今までは主催している研修会だけという形でお受けすることで決定させていただいたんですが、共催までオッケーにしましょうと。申し込み用紙を省いた経緯の中にはですね、この一元化の理由としては「こんな研修がありますので、ぜひ参加してください」という、広報のイメージが一つあるんですが「こういう研修会がここで開催するのでできれば他の研修会と重ならないようにしたい」というような目的で掲載していただくという二つのパターンでイメージして研修情報の一元化というものをスタートしてきているんですが、どちらかというとも後者のこういう研修会を開催するので、他と重ならないようにしたいという目的で掲載を依頼していただく事が少ないのではないかなと。確かに、たくさんの人に来ていただきたいので「案内したい」という目的の方がより活用していただきやすいというのはわかるんですが、もしよろしければ他の職種の参加は出来ないんだけどここにこんな研修会があるんですよっていうのを載せたいとか、載せさせていただければと思いますので、そういった目的でも掲載依頼をいただければと思います。

船山メンバー

川口先生のお話で、たぶん、鍵（セキュリティ）の問題でちょっと難しいかもしれませんが、例えばそのサイトから申し込みが出来たりですとか、締め切りの状況がわかる、例えば定員になりましたよとか、そういう情報が入っているとか。何かしらそのサイトにアクセスすると知りたいのは申し込めるかどうか、それが締め切りになっているかどうか、というところが一番最初に知りたいことであってそこから始めるのも一つかなと。そうすればそのサイトをみれば今まだ申し込めるのかだとか、逆にそこから申し込めれば最高良いですけども。そんなサイトだったらすごくいいなと思いますけれども。

佐藤幹事

ありがとうございます。センター主催で開催する研修会に関しましては、逐一参加状況がわかるので定員になりましたというお知らせはし易いなと思うんですが、他団体さんで主催されていて申し込み先が他団体さんになっている場合はもしかしたら皆さんから情報をいただければ載せることは可能だと思います。なので、そういった情報もいただければ締切になりましたととか、そういう何かしらお知らせとして載せることはできるかなと。

中村副部長

うちの協議会だったんですけど、地方の人が見るんですね。居宅連協の研修会、ホームページにはうちもアップしているんですけど、やっぱり松山の人ですと、支援センター出来たんだとそこで見て問い合わせが来たりとか。3件あったんですよ。結局断りましたけどね。そういうような活用方法もあるみたいで、函館市内の方、団体がしっかりしているところはあれなんでしょうけど、松山とかの方々は研修会の不足傾向の地域ですからそういうのをみて参加の確認をしているという話を聞きました。盛り上げていく方向でしたっけ、これ？
まずやってみてどうだったかということで解釈していたんですが、そういう事であればあまり力を入れなくても。今、コラムみたいなのを作っていききたいとか、支援センターの新たな取り組みもあるので、それとくっつけた形で載せたらいいんじゃないかと。という意見もあ

ってもいいのではないかと。齋藤さん、お願いします。

齋藤（禎）メンバー

道南老施協の齋藤です。道南老施協の場合は、会員しか申し込み対象にならないので、会員以外の人を対象じゃない。載せなくてもメリットはないんですよ。佐藤さんおっしゃったように、本当は研修が重ならないようにするためにカレンダーがあれば各団体さん楽なんじゃないかっていうのがあるんですが結局、他の団体から申込者が来るわけではないから、その団体の日にちだけあってればあとは会場の問題になってくるので、あんまりメリットにもならないんですよ。だからあくまでもそのカレンダーが他の協議会とぶつからないように見る為のカレンダーを作るのであれば、あくまでも副産物でできるものであって、各団体メリットが無いと積極的には送ってこないと思うんですよ。

佐藤幹事

確かに。そうだろうと思います。イメージとしましては、例えば居宅連協さんが老施協の皆さんにもお声かけしたい研修会を開催したいと、その時に老施協さんの研修会と重なってしまっただけでは参加率が下がってしまうとそういう参考にもなればなというイメージなんです。老施協さん自体には目に見えるメリットはもちろんないと思うんですが、違う団体さんで開催する研修会に老施協の会員さんが参加できる機会というものをより企画しやすくなる。他団体がですが。長い目というか違う視点から考えると会員さんが違う団体が主催する研修系に参加しやすい状況を作っておくというイメージでそこをメリットとしてとらえてもらえばと思います。

中村副部長

ということでございます。よろしくお願ひ致します。それでは、研修情報の一元化に関しましては、今回そういう意味では門戸を広げるということでまた30年度の実績をふまえて次年度の展開を考えていくということでよろしいでしょうか。それでは、報告事項と協議事項は以上になります。それでは、これで議事の方は終わりたいと思います。

小棚木医療・介護連携担当課長

はい、それでは、以上ですべてが終了したということでございます。中村副部長、ありがとうございました。以上をもちまして、函館市医療・介護連携推進協議会の多職種連携研修部会の第7回会議を終了いたします。

皆様お疲れさまでした。